

新宿区助成事業実施報告書

はじめに	1
1. 事業の目的と活動	2
(1) 防災意識の調査	
(2) 避難路の実態調査	
(3) 活動と提案	
2. アンケート結果	
(1) 集計一覧	3
(2) アンケートに寄せられた意見.....	7
3. 避難路実態調査	
(1) 現況写真.....	10
(2) 避難路障害地図.....	20
4. 改善提案	
(1) 階段路地改良図.....	21
(2) 補助金制度	22
5. まとめ	
(1) 防災意識	23
(2) 避難路実態	24
(3) 活動記録.....	25
6. 資料集	
(1) 高田馬場2丁目住民への事業の協力をお願い.....	26
(2) アンケート用紙	27
(3) 調査報告と住民懇談会のご案内.....	28
(4) アンケート集計結果	29
(5) 踏査写真	34
(6) 第二次世界大戦前後の高田馬場2丁目地図.....	42

作成 2016年3月

■連絡先

下記へお問い合わせください。

NPO法人建築ネットワークセンター(事務局)

〒169-0073

新宿区百人町1-20-3-505

電話 03-5386-0608

FAX 03-5386-1065

e-mail kenchiku@d2.dion.ne.jp

はじめに

建築ネットワークセンターは1996年12月に設立しました。1995年1月の阪神淡路大震災において、死亡者の約8割が家屋の倒壊で圧死した事実を重く受け止めて、これら災害を減らそうとの主旨です。以来、「安全・安心の住まいづくり」「住まいは人権」を理念に新宿区に拠点を構え、欠陥住宅改善など様々な住宅問題に対応して広く活動してきました。最近は耐震補強の相談や新宿区内の防災・震災調査活動にも取り組み、安全なまちづくり活動も進めています

近年は首都直下地震がいつ来てもおかしくない周期に入っていることは各方面で警告され、各地で訓練、講習会が行われています。このたび、高田馬場2丁目地域の「防災・減災対策と避難路を住民とともに考える」事業を実施することになりました。住民の皆さんとともに地震・災害が発生した場合、まちなみ、道路の変化と障害、避難場所までの移動に高齢者をはじめ住民の避難路は確保されるかどうか、及びお互いの助け合いはあるかなど検証しました。去年は新宿区助成事業とし早稲田南町周辺での調査を実施しましたが、これとその以前の活動経験を踏まえての報告となります。

1. 事業の目的と活動

(1) 防災意識の調査

災害は突然発生し平素の生活に襲いかかるものです。1995年の阪神淡路大震災から20年を経過したがこの間にも地震はたびたび発生し脅威を見せています。直近には2011年の東日本大震災による復興困難な被害の深刻さは繰替し伝えられ、新たに様々なマニュアルも検討されています。しかし災害が予期できる年月に発生するものでないために、漠然とした防災意識は有していても実生活において常に身構える態勢はとられていないのが実情です。毎日緊張しては通常の勤務や家庭生活が成り立たないから当然と言えます。今般はこの地域の住民が災害発生時に即座に適正な態勢をとる用意ができているかなど、基本的な項目を検討して防災意識の現状をアンケート調査しました。やや項目が多いが面倒がらずに答えて頂けるよう考慮しました。

(2) 避難路の実態調査

家屋倒壊や家具転倒など家屋内のことは極めて重要なが今回は扱いません。家屋を脱出してから一時（いつとき）避難所への初期避難における障害となる事態の有無を調査しました。ことに避難路が2方向へ開かれているかどうかを注目。12月5日午後で開催した「防災住民懇談会」での住民からのご指摘に基づいて新たに踏査し、危険個所等を確認しました。火災によって狭あい通路が通行不能に陥る恐れのある個所、道路の段差状況、ブロック塀、石塀、災害時に転倒する恐れを感じる電柱、自販機転倒などに留意しました。

(3) 活動と提案

以上を実現するために下記の活動事項を実行しました。

- ①高田馬場会長、新宿消防署戸塚出張所長、新宿区役所戸塚出張所長へ事業内容の事前の説明と相談。
- ②アンケートによる防災意識調査。住民の震災時の対応、近隣の相互の協力が得られるかを重視。全戸への配布と回収。
- ③避難路の実態調査。障害等の有無、現況を踏査。
- ④住民懇談会。アンケート調査と障害調査の結果を基に説明、意見交換。
- ⑤調査結果を住民全戸への配布。
- ⑥階段道路の調査と改良提案。
- ⑦検討会議、編集会議。
- ⑧本報告書編纂。

2. アンケート結果と防災意識報告

アンケートは10問です。前年の設問が参考になりますが、今回は避難だけでなく、救助活動に加わることができるかの意識を問いました。店舗、事務所は省き、住宅のみに配布しました。ほぼ1,000戸に配布し、回収は郵送としましたが、1日目を設けて、個別回収も実施しました。回収は96件、全数の10%です。マンションへはメールボックスを利用して配布しましたが、セキュリティのため回収の訪問は出来ていません。

以下に各設問の回答を数表と円グラフとしてまとめました。10%ながらも、平均の回答として理解すると、防災意識の概略が把握できます。

(1) 集計一覧

■回収率

1. 配布数	1000	-
2. 回収数	96	10%

■回収方法

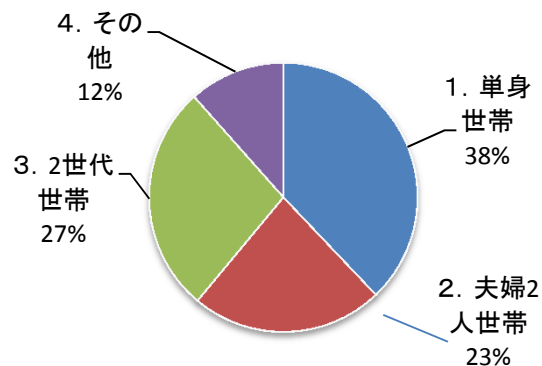
項目	件数	割合
1. 郵送	86	90%
2. 訪問	10	10%
回収数	96	100%

◆問1) 世帯構成

単身世帯と夫婦2人世帯を合わせると58世帯(61%)となり、比較的、高齢者が多い地域と思われるが、災害時の避難が懸念される。

項目	件数	割合
1. 単身世帯	36	38%
2. 夫婦2人世帯	22	23%
3. 2世代世帯	26	28%
4. その他	11	12%
合計	95	100%

問1) 世帯構成



◆問2) 70歳以上の方が同居

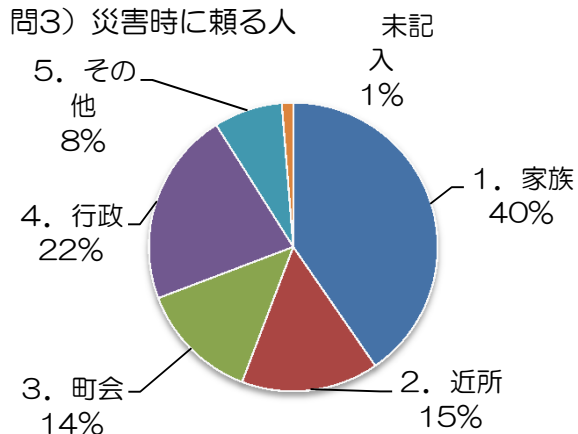
項目	件数	割合
いる	40	42%
いない	55	57%
その他	1	1%
合計	96	100%

70歳以上の方が4割近くのご家庭で同居されており、災害時要支援者としての確認が必要と思われる。

◆問3) 災害時に頼る人

項目	件数	割合
1. 家族	63	40%
2. 近所	24	15%
3. 町会	21	13%
4. 行政	34	22%
5. その他	12	8%
未記入	2	1%
合計	156	100%

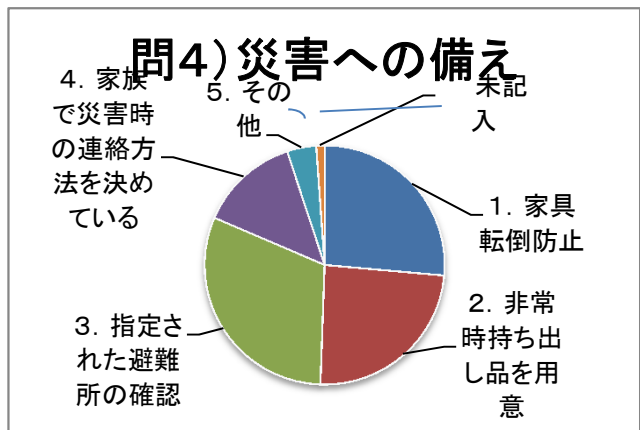
問3) 災害時に頼る人



◆問4) 防災・減災への備え(複数回答)

項目	件数	割合
1. 家具転倒防止	47	49%
2. 非常時持ち出し品を用意	43	45%
3. 指定された避難所の確認	55	57%
4. 家族で災害時の連絡方法を決めている	24	25%
5. その他	7	7%
未記入	2	2%
合計	178	

*割合の分母は、96世帯

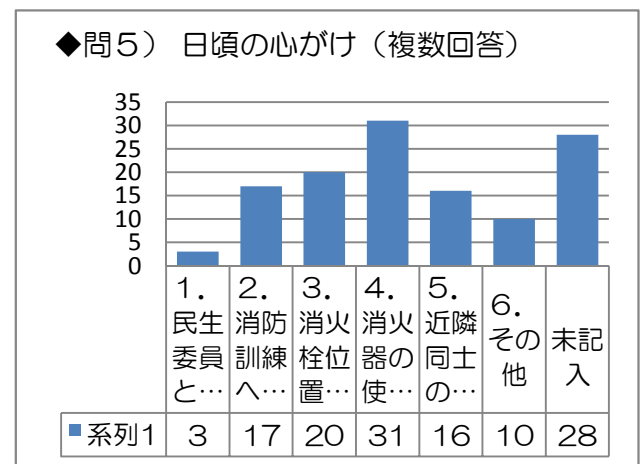


◆問5) 日頃の心がけ(複数回答)

消火器の使い方と消火栓位置の確認の回答が多いことは、火災に対する関心の高さの表れだと思われる。反面、回答なしが3割近くいるのが気になる。

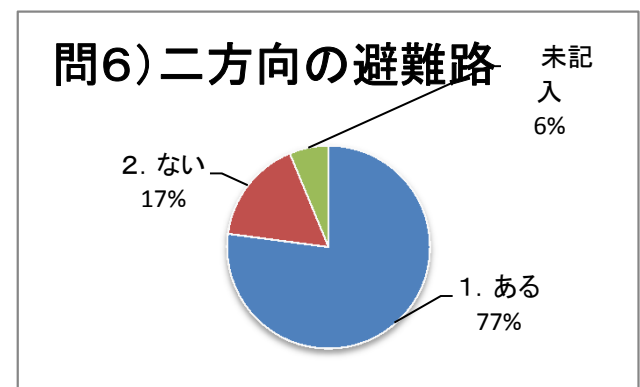
項目	件数	実施率
1. 民生委員との連絡	3	3%
2. 消防訓練への参加	17	18%
3. 消火栓位置の確認	20	21%
4. 消火器の使い方	31	32%
5. 近隣同士の話し合い	16	17%
6. その他	10	10%
未記入	28	29%
合計	125	

*割合の分母は、96世帯



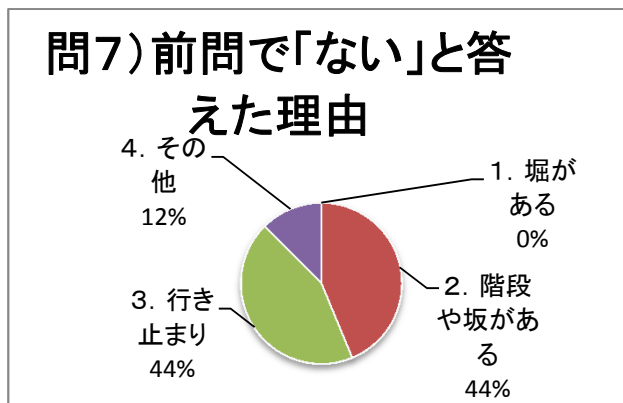
◆問6) 二方向の避難路

項目	件数	割合
1. ある	74	77%
2. ない	16	17%
未記入	6	6%
合計	96	100%



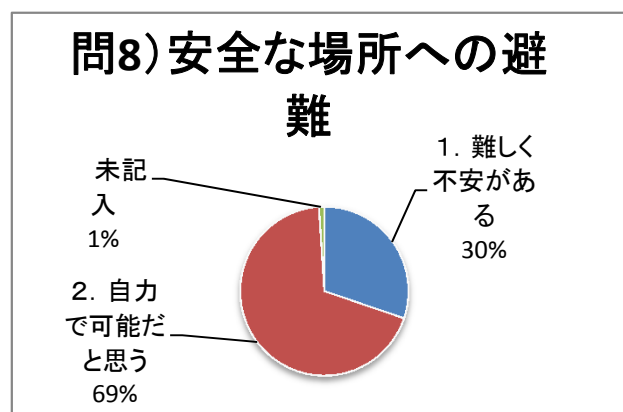
◆問7) 前問で「ない」と答えた理由

項目	件数	割合
1. 堀がある	0	0%
2. 階段や坂がある	7	44%
3. 行き止まり	7	44%
4. その他	2	13%
合計	16	100%



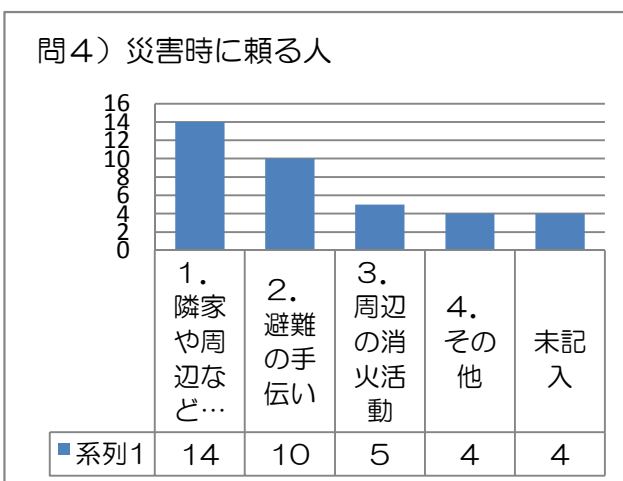
◆問8) 安全な場所への避難

項目	件数	割合
1. 難しく不安がある	29	30%
2. 自力で可能だと思う	66	69%
未記入	1	1%
合計	96	100%



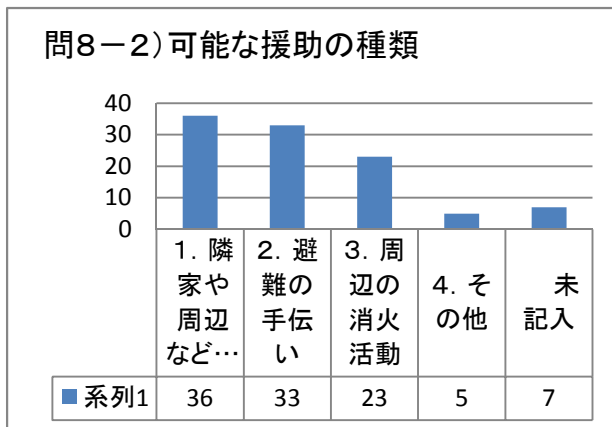
◆問8-1) 希望する援助の種類(複数回答)

項目	件数	割合
1. 隣家や周辺などへの声掛け	14	38%
2. 避難の手伝い	10	27%
3. 周辺の消火活動	5	14%
4. その他	4	11%
未記入	4	11%
回答者数	29	



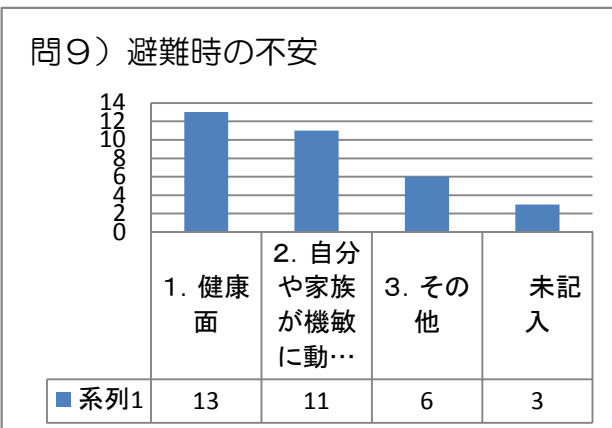
◆問8-2) 可能な援助の種類(複数回答)

項目	件数	割合
1. 隣家や周辺などへの声掛け	36	35%
2. 避難の手伝い	33	32%
3. 周辺の消火活動	23	22%
4. その他	5	5%
未記入	7	7%
回答者数	66	



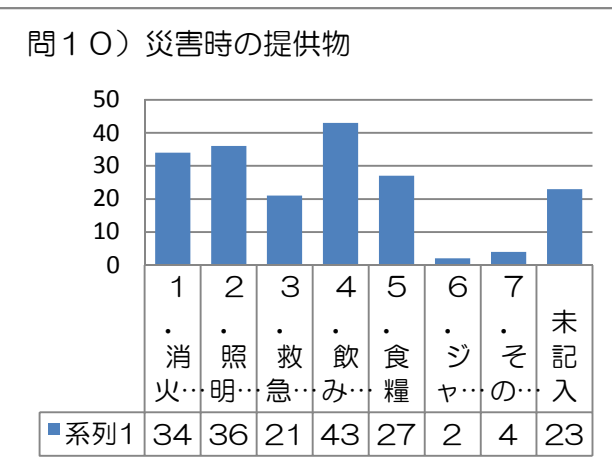
◆問9) 避難時の不安

項目	件数	割合
1. 健康面	13	45%
2. 自分や家族が機敏に動けず	11	38%
3. その他	6	21%
未記入	3	10%
回答者数	29	



◆問10) 災害時の提供物

項目	件数	割合
1. 消火器	34	35%
2. 照明器具	36	38%
3. 救急箱	21	22%
4. 飲み水	43	45%
5. 食糧	27	28%
6. ジャッキ等(注)	2	2%
7. その他	4	4%
未記入	23	24%
回答者数	96	



(2) アンケートに寄せられた意見

① 準備・心構え

- a. 地域の規則に従う
- b. 近所の付き合いが薄いので、助け合うのは難しそうに思う
- c. 引っ越してきて数カ月なので、現状が分からない。区報などで紹介されていますか。阪神大震災の被災者なので、出来る限り協力していきたい。
- d. シェルター建設中
- e. 隣の壁が劣化していて崩れるのではと心配。高さが 1.2m 位なので、区の防災チェックにかからないのですか？過去 2 回、床上浸水があった。洪水の際、車はどこに避難させたら良いのか等、区のHPに細かな指示があるといいと思う。
- f. 消火器が古くて使用できない。金がない。
- g. 住人よりも仕事をしている人が多い地域なので（特に昼）、連絡方法、周知方法など、住宅地とは別の方法も検討すべきと思う。また、昼は外国人もとても多いので、それも考慮すべきと思う。
- h. 家族との話し合い。
- i. 家具転倒のケガの為なるべく少なくする。惑いはすてる。
- j. 普段、別の区の会社に勤務しており、そちらで災害にあった時の対応や避難にはイメージがつくのですが、自宅にいるときのイメージが付きません。頼れる人もあまりいません。マンションごとの避難指示などを自事前に知っておきたいです。
- k. 健康を保つこと。
- l. 食品の備えなど。
- m. 誰でも参加できる訓練をたくさん開催していただきたいです。マンションで町内会に加入していないので、訓練情報もなく、万が一のとき不安です。
- n. とにかく自分でできる事はやる。あとはなるようにしかならない。

② 心配・不安

- a. 家族が貧乏で生活保護も受けていないので貧乏です。助けて下さい。
- b. 指定避難場所には川を渡らなければいけない
- c. 両親が 90 歳を超えている。車いすを 2 台、行政がプレゼントしてください。
- d. お金がないので死ぬだけです。
- e. 90 歳の老女で、みんな心配です。一人住まいですから。
- f. 避難所までの道が狭く、古い建物が道路沿いに建っている。
- g. 一人暮らし。住宅密集地。

③ 避難路について

- a. 崖がある。
- b. 早稲田通りの裏道・日拓（パチンコ）通り。お店の看板がたくさん並び、また、道路に面して材木の立てかけ、防災としては心配です。
- c. 避難路の整備

④ 災害時の救助支援

- a. 父母が 90 歳以上で体が動かないので、行政で助けて欲しい。
- b. 行政が助けて欲しい。
- c. 体力的に余裕がないので、援助はできない可能性がある。
- d. 咄嗟の行動に慣れていない。
- e. 行政が助けて下さい。
- f. 周辺の安否確認・連絡（SNS 等）
- g. 避難経路の誘導、家事の有無のアナウンス。
- h. できる事、なんでも。

3. 避難路実態調査報告

一般に道路幅が 4m に満たないものを狭あい道路という。この区域でその 2 分の 1 の 2m 前後のものも方々に見られる。これらも災害時において有効な避難路となるためには、なにがあっても安全確実な経路として保全されていなければならない。家族全員が一時避難所に安全に短時間に到達しなければならないが、経路において家屋の倒壊や火災の発生などどちらか 1 方向が思わぬ事態により通行不能になる恐れもあるので、各自の住宅から臨機に 2 方向へは避難できるように整えておかなければならない。下記に避難を遮る恐れあるものを示すが、これらを現地にて拾いだした。

- ① 狭い路地が多い。そこに電柱がはみ出ているところもある。
- ② 階段を使つての避難経路。
- ③ 塀や擁壁が倒壊して通路をふさぐ危険性がある。
 - 例 1 コンクリートブロック塀としては高すぎる。
 - 例 2 控え壁がないコンクリートブロック塀。
 - 例 3 異種工法の高い擁壁
- ④ トランス付き電柱、傾斜の恐れがある。

これらを以下の項目として次項に報告する。

① 現況写真

障害となる状況の撮影。平常は目が慣れていてもこのような事物が緊急時には避難を妨げる恐れがあることを認識していることは初歩の対応。

② 避難路障害地図

障害の種類ごとに記号をつけて地図に記したので障害がどこにあるか俯瞰できる。平常時にこれらを把握し、順を追って課題改善の計画を立てる場合、もれなく検討し易い。障害物は短期には改善されないので、少なくとも自宅から一時避難場所までの経路にどのような障害があるか予め認識しておきたい。



1 緊急輸送道路、早稲田通り。JR高田馬場駅に向かう。駅周辺は電柱がない。



2 マンションからの避難通路。必要巾1.5mは満たしているが広くはない。障害物はなく耐火構造塀。



3 広告看板が敷地内に納められている。避難、通行を妨げない。見通しが良い。



4 緊急輸送道路の対面。電柱が傾いている。



5 自転車は敷地内に整理。駐輪タイマー機付き。



6 路上に買い物客の駐輪。平日午後、あふれてはいない。駐輪禁止マークや警告看板がある。効果は一応ある様子。



7 私道。整然とした利用。



8 トランス付き電柱、傾き大。平時に傾いているのは震災においてはもっと傾く恐れがある。



9 緊急輸送道路、明治通り。
対面下手に戸塚警察署。
歩道等に障害物は無い。見通しが良い。



10 私有階段、荷揚げなどに使用。緊急時、奥の住戸からの避難に利用されることもありうる。



11 車止め。私有地だが囲いが無いので解放されている。しかし車止めにつまづく。



12 神田川。水が有ると安全な感じがする。実際見通しが良いので避難方向を判断しやすい。



13 建物の避難階段から道路に下りてくる。段差が突然に異なるので危険。



14 電柱の傾き大。トランスは危険を感じる程の大きさではない。



15 所々に消火器設置。共同利用の助け合いの意識をさりげなく芽生えさせている。



16 川向こうへの避難が容易。橋の中が広い。障害物もなく、見通しが良い。安心感を与える。



17 道は広いが行き止り。



18 擁壁ブロックの上にコンクリートブロック、その上にコンクリート塀の3仕様。倒壊も予想される。



19 路地、行止り。周辺は2方向避難は取れない。
路地入り口付近に「行き止り」表示が望まれる。



20 コンクリートブロック7段、私有地だろうが倒壊の恐れはある。



21 道路に面したブロック塀、9段。左のフェンス併用が望ましい。



22 一時避難場所の公園。消火栓がある。



23 防火設備格納庫。緊急時には救助隊の連絡場所にもなる。この区域には他には公園はない。



24 公園入り口へのバリケード。流入を妨げる。連結したまま除去すると左階段から神田川方面への避難を妨げる。



25 先はパーキング。だがその先の神田川沿い通路からの往來は暗黙のようだ。



26 周囲、コンクリートブロック塀。16段、3.2mもあり極めて危険。



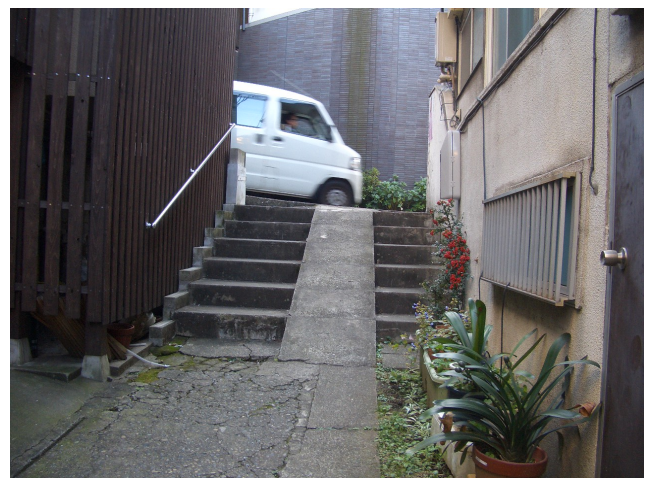
27 坂道。階段はなだらか、手摺も両側に設置している。右側パイプ看板は障害になる。



28 路地 大谷石積み。倒壊の危険性はある。



29 コンクリートブロック11段、高さ2.2Mは危険。



30 通路へ出る階段。救急車は入れない。ステンレス手摺がある。左側、木製格子は延焼ある恐れがある。



31 写真10を下から見る。個人のものだが、普段も使用は困難、避難時は期待できない。



32 極端な狭あい路地。親しみは感じるものの、緊急時には避難機能は脆弱。救助、消火活動は困難。



33 行き止りから振り返り。地面に鉄板を敷く等足下も悪い。



34 電柱の傾倒。配線は複雑なので転倒したら電線等も障害に化する恐れがある。



35 幼稚園南側通路、整理されている。園からの避難に路上の障害物はない。



36 電柱傾倒。電柱の存在は平時においても道路の有効幅を小さくしている。園児等避難者と救助隊が行き交う場面で妨げとなる。



37 一般の通行に供されるものの、送迎車輛が停車する。緊急時は患者避難が優先されるので一般住民は通り抜けを得られないこともある。



38 幼稚園が両側に立つ。右側の園者からは 35 からの避難計画であろうか。避難路の分散が必要。この辺りは車輛も少ない。



39 幼稚園からの曲がり道、行止り。近辺住戸は2方向避難は取れない。路地入り口付近に「行き止り」表示が望まれる。



40 幼稚園の間の道路、38の延長。トランス付き電柱が傾いている。



41 幼稚園の間の道路、38の延長。トランス付き電柱が傾いている。電柱の出っ張りは写真36と同様、避難、救助の往来を妨げている。



42 不整形な階段前、道も狭くなる。階段は私有地。



43 一般の通常利用が多い階段。蹴上げ、踏み面が一定しないので危険。助成金等で改善の可能性がある。



44 階段が緩やか。上質な手摺が両側に。



45 自販機、転倒防止設置。この区域は行き届いているが、警戒は必要である。



46 材木店。整理されているが、立て掛けられた材木が地震によって路上に放り出される恐れもある。



47 自販機、傾倒防止設置。左の段差が有る場合は小鉄骨で架台を製作して安定させて設置。



48 写真43、不整形階段。整形する必要がある。



49 日本語学校。外国人青年が多い。緊急時、青年の力が役だてられないか、一方、避難者として組織的な救助あることを知らしめる用意が有るか。



50 先は行き止り。塀はコンクリートブロックであるから倒壊し、避難を妨げる恐れもある。



51 店頭看板は一般に安定しているが、中には倒れそうなものもある。



52 店頭看板は敷地内に提示している。飲食店も多い街区だが、夕刻の来客時も看板との張り出しはしていない。



53 路地で駐輪整理が行き届いている。避難路が有効幅を保っている。左手はコーン、右側建物には駐輪禁止の看板が有る。



54 一時避難所の戸塚第2小学校。早稲田通りを横断する。緊急災害時は路上への車両を規制しても順次渋滞する恐れがあるとされる。横断も危うい。



55 消火器ボックス 路上設置 17箇所。



56 消火器3型17台、
路上設置のほか壁掛け型8台



57 消火栓位置を表示。



58 松川公園の防火水槽設置マンホール



59 消火栓マンホール



60 消火栓マンホール

あなたの避難路は…

新宿区「防災・減災対策と避難路を住民とともに考える」調査報告

NPO法人 建築ネットワークセンター

〔高田馬場二丁目住民のみなさまへ〕

平成27年6月からこの地域と周辺の「防災・減災対策と避難通路を住民とともに考える」の事業を実施しました。新宿区 NPO 活動助成事業として認定を受けています。平成26年度の早稲田南町に次いで2回目の調査です。

- ① 震災時の対応などについての住民の意識調査。避難経路予定しているか、相互の助け合いなど協力が得られるかなどのアンケート調査。
- ② 避難場所への移動経路及び途中の障害等の現況調査。
- ③ 消火栓などの設置位置を確認。

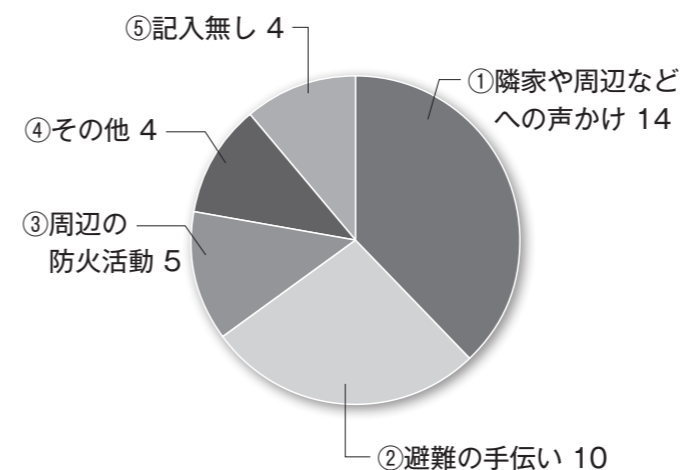
地図の内側、薄茶色の地域は準防火地域です。大通り沿道部が防火地域に指定されていることに比して、木造住宅も多く建っている区域でそれだけに燃えやすい地域なので平常の注意がより多く求められます。この地図を活用して日頃から安全な避難路をお考えください。

調査資料は NPO 法人 建築ネットワークセンターのホームページからダウンロードできます。

〔アンケート集計結果の一部〕

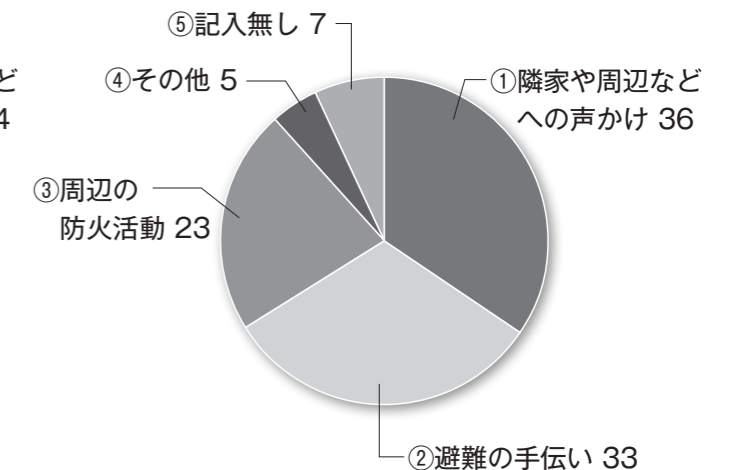
◆問8-1) 希望する援助の種類 (複数回答)

①隣家や周辺などへの声かけ	14	38%
②避難の手伝い	10	27%
③周辺の防火活動	5	14%
④その他	4	11%
⑤記入無し	4	11%
「不安がある」の回答数	29	



◆問8-2) 可能な援助の種類 (複数回答)

①隣家や周辺などへの声かけ	36	35%
②避難の手伝い	33	32%
③周辺の防火活動	23	22%
④その他	5	5%
⑤記入無し	7	7%
「自力で可能」の回答数	66	



【避難路実態調査報告】

この地域には狭い道路が少なくありません。緊急時においては家族全員が一時(いつとき)避難場所に速やかに到達しなければなりません。家屋の火災や塀の倒壊の発生など、どちらか1方向が思わぬ事態により通行不能になる恐れもあります。各自の住宅から臨機に2方向へは避難できるように備えておくことは重要です。下記に危険と思われる事項を示します。

- イ 狭い路地。電柱が有効幅を減じるなど支障がある。
- ロ 階段通路。
- ハ 塀や擁壁が倒壊して危害を与え、かつ道路を塞ぐ恐れがある。
- ニ 行き止まり。
- ホ トランス付き電柱がすでに傾斜していて、転倒の恐れがある。

なお、駅前の賑やかな商店街であるにもかかわらず、迷惑な駐輪や駐車がなく、看板等も路上にはみ出さないなど整理されています。自販機は全て転倒防止が施されています。消火器や消火栓も街区沿いには要所に設置されているので、住民による消火協力が生かされます。

一時(いつとき)避難場所である戸塚第2小学校は早稲田通りの向かいであり、巨大地震時には輸送道路の混雑渋滞が予想され横断の支障となることが懸念されます。

【資料】防災関係の公的機関等

No.	関係項目	自治体	問い合わせ先・確認先
1	新宿区空き家等の適正管理に関する条例	新宿区	区長室危機管理課危機管理係 03-5273-4592
2	ブロック塀等の除去に対する補助	新宿区	都市計画部地域整備課 03-5273-3829〔耐震担当〕
3	セットバック(公共の用に供する道路)	東京都	東京都主税局ホームページ http://www.tax.metro.tokyo.jp
4	新宿区立防災センター	新宿区	03-5361-2460
5	防災対策回覧板(新宿区防災情報)	民間	http://www.ksamtys.net/bousai/
6	私道整備助成制度(私道舗装、私道排水設備)	新宿区	https://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file16_11_00002.html

連絡先

NPO法人 建築ネットワークセンター

住所 新宿区百人町1-20-3-505
 電話 03-5386-0608 Fax 03-5386-1065
 Mail kenchiku@d2.dion.ne.jp
 URL <http://www.kenchikunet.org>

安全な避難路を見付けましょう

EVACUATION ROUTE GUIDE MAP
Be prepared to take a safe route.

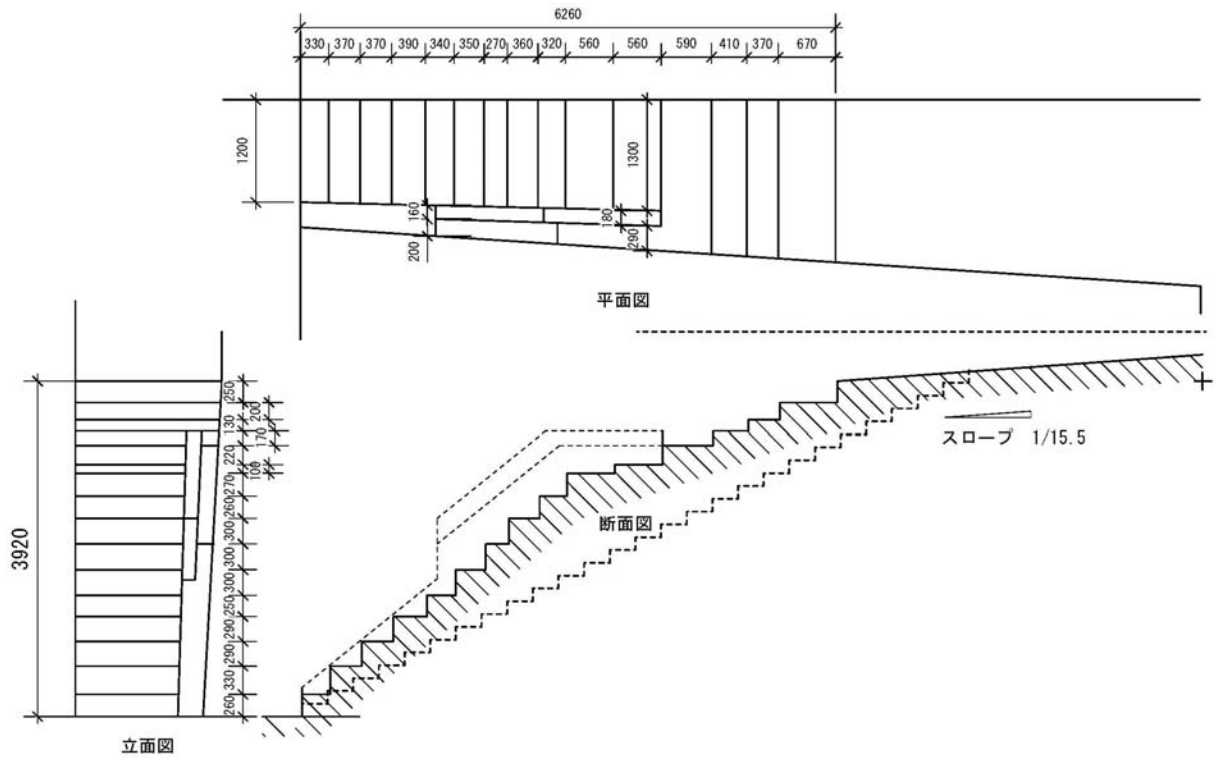
高田馬場
二丁目地区



※この地図は2016年1月国土地理院ホームページの白地図を基に「NPO 法人 建築ネットワークセンター」が新宿区NPO助成事業の一環として作成しました。

4. 改善提案

(1) 階段路地改良図



NPO法人建築ネットワークセンター1級建築士事務所 東京都新宿区百人町1-20-3渡辺ビル505 TEL 03-5386-0608	工事名称 新宿区助成事業 防災・減災対策と避難路確保を住民とともに考える	図面名称 階段実測図	縮尺 1/50 2016.10.20	図面番号 1
--	--	---------------	--------------------------	-----------

【助成金の対象となる階段（例）】



(2) 補助金制度

◆私道舗装の助成(助成額:区算定工事費の80%)

- ① 私道敷地の土地所有者および私道に隣接する土地所有者等の全員の同意を得られること。
- ② 舗装の新設及び改修であること。
- ③ 一般の交通の用に供されている幅員 1.5m 以上の私道であること。
- ④ 私道の両端又は一端が、公道又は私道に接していること。
- ⑤ 再度助成を行う場合は、著しく破損し、交通上支障をきたしていること。
- ⑥ 開発行為等による整備工事でないこと。

◆私道排水設備の助成(助成額:区算定工事費の80%)

- ① 私道敷地の土地所有者および私道に隣接する土地所有者等の全員の同意を得られること。
- ② 私道排水設備の改修であること。
- ③ 一般の交通の用に供されている幅員 1.5m 以上の私道であること。
- ④ 私道排水設備の利用戸数が2戸以上あること。
- ⑤ 既設の排水木管が複数ある場合は、排水木管を一本にまとめること。
- ⑥ 助成する規模は、当該路線全体を対象とし、都が設置する下水排水施設に至るまでの改修であること。
- ⑦ 再度助成を行う場合は、著しく破損し、使用上支障をきたしていること。

◆私道舗装の助成金の対象工事

- ① アスコン舗装(厚5cm～30cm)
- ② 透水性舗装(厚 19 cm)
- ③ コンクリート舗装(厚 30cm)(※1)
※1 既存コンクリート舗装の場合および急勾配で交通上、危険が予想される場合
- ④ L形側溝
- ⑤ 雨水ます
- ⑥ 横断側溝
- ⑦ 取付管(雨水)
- ⑧ 縁石改修
- ⑨ 境石設置
- ⑩ 手すり設置
- ⑪ 階段補修(金網入り・モルタル塗り)

5. まとめ

今回事業の防災意識調査と避難路実態調査はその目的を果たすことが出来ました。別項の活動記録に記載されています会議等は20回、現地をくまなく歩き回ること13回におよびました。アンケート配布、懇談会、お知らせ、最終に調査報告書を配布したことなどによって、災害が現実のものであるという住民の認識や防災避難意識をより深める一助になるものと思われまます。

(1) 防災意識

事業の根幹であるアンケート調査活動によって、防災について生の声が聞けたことが最大の成果です。回収率10%にとどまりましたが町内の防災意識を垣間見ることができました。そして各項目についての回答は町内住民の押しなべた意識でと見ることができます。住民構成は単身者と夫婦2人世帯が61%に上り、うち70歳以上もしくは同居が42%となっています。しかも、避難の際には健康面に不安があると45%の人が答えています。避難においてより困難さを伴う住民が多い地域であることは、町会も行政も認識しておくことが大切と思われまます。

回答は重なりますが災害時頼る人として、まず家族に40%、近所15%、町会13%、行政22%となっています。昨年実施しました早稲田南町での同様のアンケートの項目においては、次の通りでした。早稲田南町は小学校、中学校を含む純然たる住宅地域であるからか、回収率が23%と思いのほか多くを得ました。回答は今回同様に重複しています。災害時に頼る人として、家族に64%、近所39%、町会44%、行政27%として近所や行政に頼るとするものも高かったため、これら組織の役割への期待が大きいと判断しました。これに比較すると、この地域は駅前商業地域が大半であるという特性からか、近所、町会等への期待は薄いと言えます。

しかし今回の設問では救助についての希望を問いましたが、近隣への期待が大きいことが示されました。災害時に近隣が声をかけて欲しいと求める、が64%、避難の手伝いをして欲しいが39%、周辺の消火活動をして欲しいと望むが44%に上り、一方余裕があれば救助を手伝うとするのが声掛け、53%、避難を手伝うが、48%、消火活動が33%となり、相互救助活動の可能性が高いことが明らかになりました。災害時は提供物も可能性があるようです。消火器、照明器具、救急箱、飲み水、食料などの提供の割合は高く、助け合う状況が見られます。

なお、77%の住民が2方向への避難路が確保できている、17%は階段、行き止まりによって確保できていないと答えています。安全な場所への避難については30%が難しく不安であると答えています。

さて意見も寄せられていますが、中には深刻な事態もあります。「頼る者がいない」「90歳を超えて体が動かない」「独り住みである」「近所付き合いがない」「行政に助けて欲しい」など、厳しい現実に置かれている方々があります。これらを的確に把握することを、町会と行政にもとめているように思われます。さらには「生活保護も受けず貧乏である、助けて欲しい」という悲痛な声もありました。

(2) 避難路実態

調査の結果は「安全な避難路を見つけましょう」マップに障害箇所を示し、かつ状況を選んで撮影しました。街路は整理されていて、平時に障害となるものは見当たりませんが、袋小路の箇所も多くあり、背面が崖地で前面一方向にしか避難路が取れないという土地、道路のとの現況の配置によって限定されていますから二方向は無理です。しかし住居を脱出して近辺に逃れたら左右どちらにでも避難して、安全を早く確保できる可能性を保っておきたいものです。

この街区の北側には東西に流れる神田川があります。地形は南側から北に向かって下がっていて、かつ高低差が大きいという特質があります。いっとき避難所は南側早稲田通りを挟んでの向かい側にありますから、ここへ避難するには全体としては坂や階段を上がって到達するという様態をとることになります。避難の心理としては逆向きであり、体力も消耗します。東側の明治通りも南側の早稲田通りも緊急輸送通路としての混雑、停滞の状況が想像できて、素直に避難所側に駆け込むことを躊躇させるかもしれません。これに比べて、北側の神田川の方向は下り坂であるから駆け込みやすいので体力上無理が少ない、水があるから熱気を避けられる、周辺状況の見通しが利くなどの長所もあります。地震など一旦小休止を感じ取ってから、所定の避難場所に向かうという様態も考えられます。そこには、情報、食料、飲み水、トイレなどの他様々な情報や生活機能が集中しています。

なお、街区内部には木造家屋が多く見受けられます。街区沿道は防火地域ですから耐火建築物が並びますが、内部の多くは防火仕様ではあっても耐火建築物ではありません。火災が発生する可能性は少なくなく、かつ延焼の恐れも伴うことは事前に認識しておく必要が有ります。住居の位置が袋小路や端部にある場合、かつ高齢、疾患など避難弱者であれば逃げたい方向に火の気が起きれば退路が絶たれ、困難が生じます。極めて危険な状態になります。

および、街区内部に奥まっている宅地が多く散在するので、避難に漏れる人があることに気づかない恐れもあります。平時は障害がなくても大地震によって電柱が倒れること、ブロック塀、擁壁が倒壊する恐れもあります。電柱は平時においても傾いているものが多くあり、地面とのあいだに徐々に傾いたとみられる隙間が生じています。これらは大規模な地震には倒れて、道路を塞ぐ危険性があります。そうすると避難と救助活動をたちまちに妨げるものとなります。

評価できることが幾つかあります。まず駅前商店街であるにもかかわらず、店頭が整然としています。看板が道路に無秩序にはみ出していない、自転車やバイクが路上に放置されていないので、避難が道路いっぱい有効に使えることができます。全ての自販機に転倒防止が施されています。ただし、薄い土間コンクリートに後打ちでのボルト止めもあって、中には不十分かもしれないものもありそうですが、一応、危険ではないとしました。街区路には消火器、消火栓が設置されていて、その位置が明示してあるので緊急時の対応は可能と思われます。

(3) 活動記録

2015年

- 4月 2日 現地視察（4人）
4月 9日 2015年度新宿区助成事業申請
5月21日 第2回現地視察・写真撮影（7人）
5月25日 公開プレゼン資料を新宿区に提出
5月29日 助成事業公開プレゼンテーション（3人）
6月 4日 助成金交付決定通知
7月 1日 第一回新宿区助成事業推進委員会（以後、事業委）開催し体制を決める。
委員長1人 副委員長1人 委員11人 事務局2人
7月14日 高田馬場2丁目現地調査（5人）
7月21日 第二回事業委。アンケート内容について討議（7人）
8月 4日 現地調査（2回目）し、戸塚地域センターで意見交換と打ち合わせ（6人）
8月16日 4日の議論を踏まえたアンケート案を作成
8月下旬 料金受取人払い郵便の申請準備（9月11日承認）
9月 8日 三回事業委。アンケートを確定。今後の日程を確認（6人）
9月12日～ アンケート、挨拶文の調整
9月16日～ アンケート配布準備
9月29日 アンケート配布（7人）
9月30日 同（2人）
10月 8日 アンケート回収（5人）
10月14日 同（2人）
10月16日 同（2人）（=最終的な回収件数97）
10月20日 第四回事業委（7人）
10月28日 防災勉強会（戸塚地域センター）講師：末延氏（15人）
11月 2日 第一回報告書作成委員会（報告委）（4人）
11月24日 住民懇談会の案内を配布（2人）
11月25日 住民懇談会の案内を配布（2人）
11月30日 第二回報告委（12月5日住民懇資料確認）（5人）
～12月4日 住民懇資料作成
12月5日 住民懇談会開催 アドバイザー：中村八郎氏、地域3人参加（16人）

2016年

- 1月 7日 第三回報告委 住民向け報告書内容検討（5人）
1月20日 第四回報告委 同（5人）
1月27日 第五回事業委（7人）
2月 3日 現地・写真撮影（消火器・消火栓、自販機、傾斜電柱等）（2人）
2月16日 第五回報告委（4人）
2月23日 第六回報告委（3人）
3月30日 「避難路地図」住民へ配布（8人） 以 上

6. 資料集

高田馬場2丁目および近隣住民の皆様へ

新宿区協働推進基金条例に基づく「防災・減災対策と避難路確保を住民とともに考える」の調査・交流活動へのご協力をお願い

私たち建築ネットワークセンターは、1995年1月の「阪神・淡路大地震」で家屋が倒壊し、死亡者の約8割が家屋の倒壊・圧死で命が奪われた事実を重く受け止め「安全・安心の住まいづくり」「住まいは人権」を理念に新宿区で活動してきました。

最近では、欠陥住宅改善、耐震補強の相談、マンション大規模修繕、新宿区内の防災・減災調査活動に取り組み、安心・安全なまちづくり活動をすすめています。

このたび新宿区の「協働推進基本条例助成金交付」の審査会において「防災・減災対策と避難路を住民とともに考える」の事業計画が承認されました。

高田馬場2丁目地域は、新宿区地震ハザードマップでは、総合危険度3であり、神田川、JR線、早稲田通り、明治通りに囲まれた地域で震災等が起きた時、その避難路をどう確保したらいいか、は重要な課題と考えています。

具体的な活動として、以下のことを予定しています。

- ①住民のみなさんの震災時の対応などについて聞き取りアンケート調査を実施します。
- ②住民へのアンケート結果の報告と専門家も参加した懇談会を開きます。
- ③アンケート結果と提案を全住民に配布します。
- ④新宿区に「アンケート結果と提案」を含む事業報告書を提出します。

ぜひ、ご協力をお願いします。

防災アンケートのご協力をお願い

このアンケートは、高田馬場2丁目および近隣にお住まいの皆さんを対象に行うもので、今後の自主防災を考える際の貴重な基礎資料になるものと考えています。

アンケート用紙は、お手数ですが、添付の封筒に入れ、封をして、10月8日（木）にネームプレートを着けた建築ネットワークセンターの者が訪問・回収に伺いますのでご提出くださるようお願い申し上げます。

この調査結果については他の目的に使用しないことを申し添えます。

お留守の場合のアンケート用紙の提出について

訪問した際、お留守の場合は、面倒をおかけしますが、返信用封筒に入れて郵送していただくか、下記のところにFAXをお願いいたします。

■お問い合わせ先（事務局）

このアンケート調査に関してご不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

NPO法人建築ネットワークセンター
理事長 小川満世

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-3-505

電話 03-5386-0608、FAX 03-5386-1065

災害時の避難路確保および防災活動についてのアンケート

○印で該当の番号をかこんで下さい。

(問-1) あなたの世帯構成を教えてください。

1. 単身世帯 2. 夫婦2人世帯 3. 二世帯世帯 4. その他 ()

(問-2) あなたの家庭で70歳代以上の方と同居していますか。

- 1 はい 2 いいえ

(問-3) 災害時に誰を頼りにしていますか。 (複数回答可)

1. 家族 2. 近所 3. 町会 4. 行政
5. その他 ()

(問-4) 防災・減災にたいして、どのような備えをしていますか。 (複数の回答可)

1. 家具転倒防止 2. 非常時持出品を用意 3. 指定された(広域)避難場所の確認
4. 家族で震災時の連絡方法を決めている 5. その他 ()

(問-5) 日頃、心がけていることがありますか。

1. 民生委員との連絡、情報 2. 防災訓練への参加 3. 消火栓位置確認
4. 消火器の扱い方 5. 近隣同士の話し合い
6. その他 ()

(問-6) 災害時、自宅から避難場所へ行き着くまでの経路は二方向ありますか。

1. はい 2. いいえ

(問-7) 前問で「いいえ」と答えた方、その理由は?

1. 塀がある 2. 階段や坂がある 3. 行き止まり 4. その他 ()

(問-8) 安全な場所への避難は可能ですか。

1. 難しく、不安がある 2. 自力で可能だと思う

(問-8の1) 問8で1と答えた方、どんな援助が欲しいですか

1. 隣家や周辺などへの声かけ 2. 避難の手伝い 3. 周辺の防火活動
4. その他 ()

(問-8の2) 問8で2と答えた方、余裕があればどんな援助ができますか

1. 隣家や周辺などへの声かけ 2. 避難の手伝い 3. 周辺の防火活動
4. その他 ()

(問-9) (問-8)で「1. 難しく、不安がある」と答えた方はどんな不安がありますか。

1. 健康面 2. 自分あるいは家族が機敏に動けない
3. その他 ()

(問-10) 防災活動に提供できるものを持っていますか。

1. 消火器 2. 照明器具 3. 救急箱 4. 飲み水 5. 食糧
6. フォークリフト、ジャッキ、チェーンソー、自家発電機などの機材
7. その他 ()

★ご回答ありがとうございました。

防災、減災対策でご心配なこと、ご意見などがありましたらご記入ください。

()

高田馬場2丁目地域にお住まいのみなさま及び近隣のみなさまへ

＝災害時の避難路確保および防災活動アンケート＝

〔調査報告と防災住民懇談会〕

(新宿区協働推進基金NPO活動資金助成事業)

ご出席のご案内

平成27年11月24日

NPO法人建築ネットワークセンター

新宿区百人町1-20-3 渡辺ビル505

理事長 小川 満世

このたび、私どもの新宿区協働推進基金NPO活動資金助成事業のアンケート活動にご協力いただきましてありがとうございます。現在96名の方から貴重なご意見がよせられています。「防災・減災」対策を日常的に意識化されているご家庭もあり、多くのことを学ぶことができました。

避難路を確保する上で、危険な場所について、ご意見にもとづき現地に赴き調査しました。専門的知恵と経験をもとに検討を重ねているところです。

こうした内容をみなさまにお知らせするため、専門家を交えた「調査報告と防災住民懇談会」を下記の日時で開催することにいたしました。新宿区役所戸塚特別出張所、消防署戸塚出張所の方もご出席いただく予定です。お忙しいとは思いますが、ぜひご出席くださいますようご案内申し上げます。

○と き・12月5日(土) 午後1時～3時

○ところ・戸塚地域センター 7階多目的ホール

(住所・新宿区高田馬場2丁目18番1号 TEL03-3209-8001)

○報告者・荻野 広己氏 一級建築士・建築ネットワークセンター技術部長

○アドバイザー・中村 八郎氏 NPOくらしの安全安心サポーター理事長
日大理工学部非常勤講師

ご不明な点、ご質問等は、下記にご連絡ください。

連絡先：NPO法人建築ネットワークセンター

電話 (5386) 0608

FAX (5386) 1065

e-mail kenchiku@d2.dion.ne.jp

新宿区協働推進基金NPO活動資金助成事業

アンケート集計結果

2015年12月5日

NPO法人建築ネットワークセンター

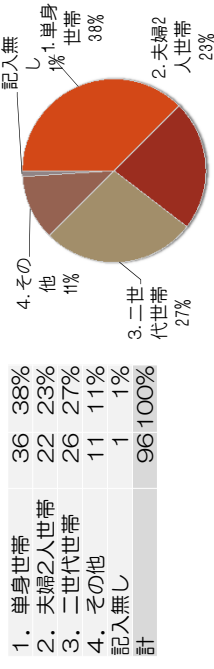
アンケートの回収結果

■ 回収率	1. 配布数	約1000	
	2. 回収数	96	
		10%	
■ 回収方法	1. 郵送	86	8%
	2. 訪問	10	1%
	合計	96	100%

アンケートの回収率は10%だったが、これは防災に関して住民の方の高い関心の現れと想います。
また、郵送で8%の方が届けてくださったことも、そのことを裏付けるものです。

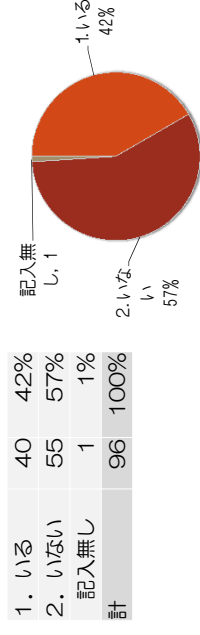
なお、平日の日中に訪問しましたが、ほとんどのご家庭がご不在でした。お勤めの方や学生さんが多い町という印象でした。

問1) 世帯構成



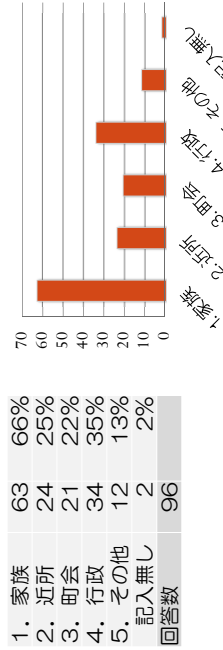
年齢を加味したら、もう少し実態（年齢構成）を現わせたいと思われる。
例えば、単身世帯でもお年寄りや学生からも回答があったが、人数は確認できなかった。

問2) 70歳以上の同居



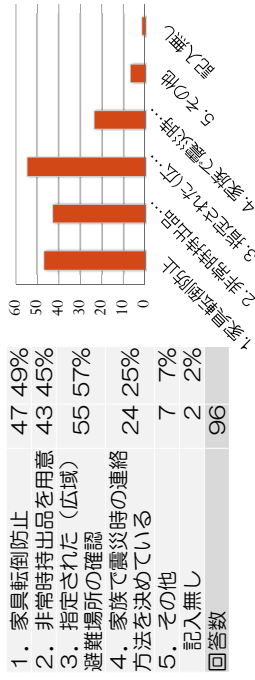
70歳以上の方が4割近くのご家庭で同居されており、災害時要支援者の確認と対策が、必要と思われる。

問3) 災害時に頼る人



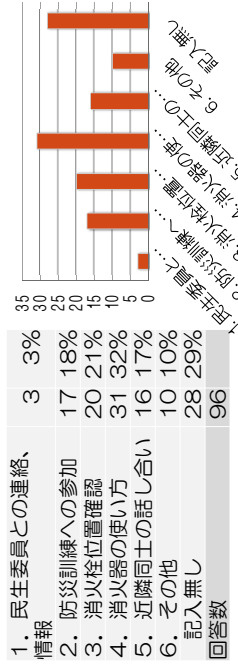
頼りにするのは家族が一番多く、次に行政が続いている。3番目に町会と近所がほぼ並んでいる。
 災害時、行政からの援助を過度に期待することはできないと思われる。支援のおおきさは、自助（近所）、共助（町会）、公助（行政）の順となり、向こう三軒両隣が、日常的なお付き合いを強め、いざというときに近所同士で助け合いができるようにしておくことが大切となる。

問4) 防災・減災への備え



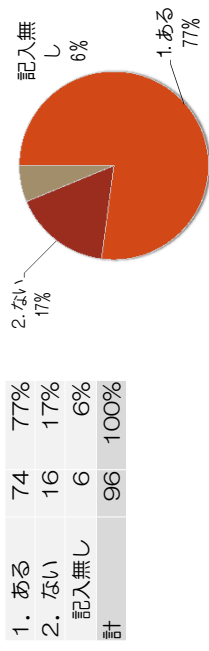
怪我などは、災害発生直後に多くかかる。家具転倒防止や建物の耐震化で、体への被害を最小限に食い止める工夫が必要となる。

問5) 日頃の心がけ



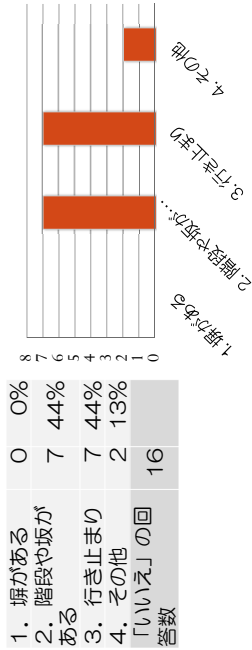
消火器の使い方と消火栓位置の確認の回答が多いことは、火災に対する関心の高さの現れと思われる。反面、回答なしが3割近くいるのが気になる。

問6) 二方向の避難経路



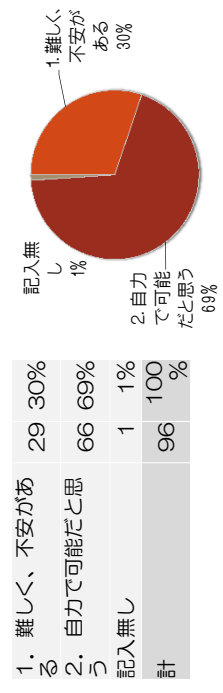
二方向への避難経路がない家庭が17%あるが、この家庭は、一方向の避難路の安全性（家屋やブロック塀の倒壊等）を確認しておく必要がある。

問7) 前問で「いいえ」と答えた理由



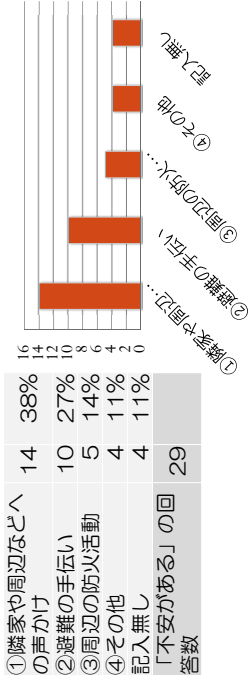
災害時、避難可能な方向の安全が保たれるか否かを確認し、保たれない場合には、避難方法の検討が必要。

問8) 安全な場所への避難



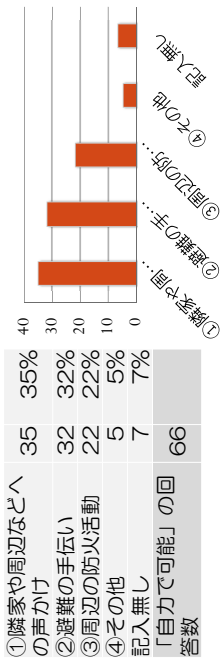
3割の方が避難への不安を感じている。より一層、ご近所とのつながりの必要性を感じた。

問8-1) 希望する援助の種類



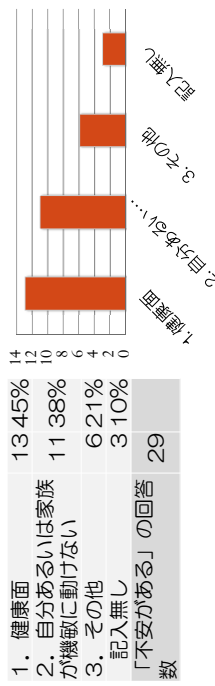
割合の多い①と②は、ご近所の方への期待の大きさの現れと思われる。

問8-2) 可能な援助の種類



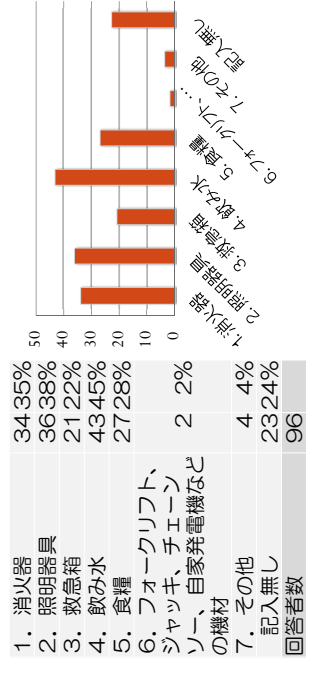
①と②の割合が多いことは、援助を必要とする方と一致している。災害時、助ける人と助けられる人とのつながりを、日常の中で作り上げる工夫が必要と思われる。

問9) 避難時の不安



問8での安全な場所への避難に不安がある人の、1番の理由が「健康面」であり、2番が「自分あるいは家族が機敏に動けない」と、いずれも身体に起因する理由であることがわかる。

問10) 災害時の提供物



3割以上の家庭で、消火器や照明器具、飲み水を準備していることがわかる。6項のフォークリフトやジャッキ、チェーンソーなどは、倒壊した建物の下敷きになった人の救助に役立つ。

ここからは、自力での避難が困難な世帯と、70歳以上の方のいる世帯について、分析します。



【参考データ】

住民基本台帳人口及び世帯数
(新宿区統計) 平成27年

	総数	70歳以上	
		人口	割合
新宿区	291,696	46,607	16.0%
高田馬場2丁目	1,882	254	13.4%

70歳以上の人口の占める割合は13.4%と、新宿区全体の16%より少ない。

1. 70歳以上のいる世帯の割合

世帯構成	全世帯数	70歳以上	割合
①2世代以上の世帯	36	13	36%
②夫婦2人	22	13	59%
③単身	26	6	23%
④その他	11	7	64%
合計	95	39	41%

- ・70歳以上のいる家庭は、平均41%となっている。
- ・夫婦2人の家庭では59%と高く、老夫婦だけの家庭が多いと思われる。
- ・単身の家庭の場合23%が独居老人と思われる。

2. 70歳以上を含む世帯の避難力

世帯構成	可能	困難	その他
①2世代以上	7	7	0
②夫婦2人	8	4	1
③単身	4	2	0
④その他	4	3	0
計	23	16	1

70歳以上のいる家庭の4割が、避難時の支援を求めている。

3. 自力避難困難世帯の内訳

世帯構成	70歳以上	70歳以下	その他
①2世代以上	7	3	0
②夫婦2人	4	3	0
③単身	2	5	1
④その他	3	0	0
計	16	11	1

70歳以上のいない家庭(56世帯)でも2割の家庭で、自力避難困難となっている。



新宿区協働推進基金NPO活動資金助成事業

高田馬場2丁目 踏査写真集

2015年12月5日

NPO法人建築ネットワークセンター



1.緊急輸送道路「早稲田通り」、JR高田馬場駅に向かう。駅周辺は電柱がない。



2.広告看板が敷地内に納められている。避難、通行を妨げない。見通しが良い。



3.自転車は敷地内に整理。駐輪タイマー機が設置されている。



4. 路上に買い物が駐輪、平日午後、あふれてははいない。駐輪禁止マークや警告看板がある。効果がある様子。



5. トランス付き電柱、傾き大。平時に傾いているのは震災においてはもっと傾く恐れがある。



6. 車止め、私有地だが困りがないので解放されている。しかし車止めにつまづく。



7. 建物の避難階段から道路に下りてくると、段差が突然に異なるので避難時には危険。





12. 防火設備格納庫。緊急時には救助隊の連絡場所にもなる。この区域には他に公園はない。



13. 公園入り口へのバリケード。流入を妨げる。



14. 先はバーキング。だがその先の神田川沿い通路からの往来は暗黙のようだ。



15. 周囲、コンクリートブロック塀。16段、3.2mもあり極めて危険。



16. 坂道。階段はなだらか、手摺も両側に設置している。



17. 通路へでる階段。緩やか、ステンレス手摺もある。左側、木製格子は連続ある恐れがある。



18. 極端な狭い路地。親しみは感じるものの、緊急時には避難機能は脆弱。救助、消火活動を妨げる。



19. 行き止りから振り返り、地面に鉄板を敷く等足下も悪い。



20. 幼稚園南側通路、整理されている。園からの避難に路上の障害物は無い。



21. 電柱傾倒、電柱の存在は平時においても道路の有効幅を小さくしている。園児等避難者と救助隊が行き交う場面で妨げとなる。



22. 幼稚園からの曲がり道、行き止り、近辺住戸は2方向避難は取れない。



23. 不整形な階段前、道も狭くなる。階段は私有地が解放されている。



24. 一般の通常利用が多い階段。蹴上げ、踏み面が一定しないので危険。助成金等で改善の可能性がある。



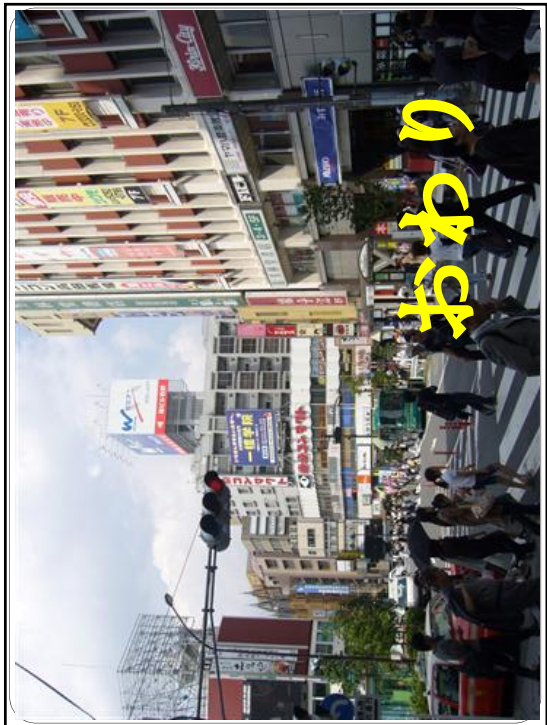
25. 不整形階段。



26. 先は行き止り。扉はコンクリートブロックであるから倒壊し、避難を妨げる恐れもある。



27. 避難所。区立戸塚第二小学校。早稲田通りを渡り切ること不安がある。訓練の上、整然とした活動が期待される。



(6) 高田馬場2丁目の第2次世界大戦前後の市街地状況



1937年高田馬場2丁目 第2次世界大戦前の市街地状況



1945年高田馬場2丁目 敗戦直後の市街状況 着色部分は空襲により焼失した部分で、戦後の復興時にある程度区画整理がされたのではないかとと思われる。明治通り沿いの北部は焼けていないので、この部分に現在も狭い道路や行き止まりが多く見られる。

コンサイス*東京都35区区分地図帖 戦災焼失区域表示 日本地図株式会社/日地出版より